

# 黒部五郎岳～雲の平～大東新道山行記

久し振りの小屋泊りの単独行に行って来ました。単独行の良さは天候を見て行ける事と日程も臨機応変に決められる事です。今回の目的は小屋泊りの装備（10～14KG）を背負ってどの程度体力的に大丈夫なのか？の検証も兼ねてと、「北アルプス全一般登山道踏破」の未踏区間のチャレンジです。具体的には「神岡新道の終点から黒部五郎岳間」と「高天原峠～薬師沢小屋間の大東新道」です。今回は荷物の軽減化の為に初めて「酒」を持参しませんでした。それでもザックの重量は12KGありました。初日の雨でザックは濡れて重くなりました。何とか今後の縦走も出来そうですが体力低下はハッキリ感じました。

7/24（木）天候 曇りのち小雨 自宅 4：25～糸魚川・立山IC経由～7：

35 折立登山口（降雨の為様子見）9：25～13：15 太郎平小屋（泊）

7/25（金）天候 ガスのち晴れ 4：30～6：30 北ノ俣岳 6：35～9：30

黒部五郎岳（昼）10：35～12：25 黒部五郎小舎 12：50～14：30 三俣山荘（泊）

7/26（土）天候 快晴 4：20～4：50 黒部川源流 5：00～7：10 スイス

庭園 7：25～7：40 分岐 8：00～9：25 高天原峠（昼）9：50～10：40

D沢 10：45～11：10 C沢 11：20～11：45 B沢と黒部川合流点（釣り）

12：00～13：15 薬師沢小屋（泊）

7/27 (日) 天候 曇りのち雨 4:25~7:15 太郎平小屋 7:20~10:20

折立登山口 10:50~亀谷温泉で入浴・昼食~16:10 帰宅

24日 日有峰林道の途中からまさかの小雨。折立駐車場到着後朝食兼ねて様子見する。止んだので歩き出すがすぐに雨降りになる。上だけ雨具着用して歩くが虫はうるさいし、気が重い。ほとんど休憩無で歩く。お蔭でコースタイムより1:10も早く小屋着。乾燥室を利用するがほとんど効果無。山小屋も高い料金取るのだからもう少し改善すべき、登山者の立場に立ってもらいたい。今日は写真は一枚も撮らず。

25日は自炊室で朝食して小屋を早く出る。ガスでまた上だけ雨具着用して歩く。雨で濡れてザックも重くなる。懐かしい神岡新道との分岐点に着く。

飛越新道分岐、ここから黒部五郎岳が未踏区間

2度目の黒部五郎岳



すぐに北ノ俣岳山頂に到着するがガスで展望無。黒部五郎岳山頂もガスのまま。山頂にいた好青年と少し会話する。1時間粘るが下山する事にする。ガス時は稜線ルートがお奨めと書かれているので、どうするか思案する。百名山で登っ

た時にこのカールは強烈な印象があったので、カールへ下る事にする。

カールはシナノキンバイとハクサンイチゲの群生

カールの全景と中央が黒部五郎岳



黒部五郎小舎



これが大成功になる。下り始めたらガスが切れ始めてカールの底では素晴らしいカールの全容が見られた。日本百名山の中でも特筆物の風情だと思う。振り返り振り返り眺めながら下山する。

懐かしい黒部五郎小舎に到着。ついビールを飲んでしまうが、水で冷やした生ぬるい缶ビールは頂け無い。しかも此処からの急登には飲まない方が正解だった。反省！。ミツガシワ・シナノキンバイ・ハクサンイチゲ中心の花を眺めながら展望を楽しみ歩く。テント場が賑わっている三俣山荘に到着。割り当てられた寝場所の横の通路の板が歩く度に寝床が揺れる。寝るときには人工内耳を外すので、音には影響の無い小生だが、揺れは困る。もしかすると私の耳を見ての部屋割りだったのかと勘ぐってしまった

う。変えてくれと頼んだがNO!。どうもこの山荘を経営する伊藤正一氏にはガッカリすることがある。(水晶・雲の平小屋も経営) 隣の方は71歳の単独行だが夜行バスでほとんど寝てないと言うが、新穂高温泉から此处まで歩いて来たとの事。コースタイム9:30である。通常は双六小屋泊になるが。元気な7



0歳代が最近が多い。北海道の山でも化け物のような元気な70歳代に何人か会ったが。

夕食後外へ出ると槍ヶ岳～北鎌尾根の展望が素晴らしかった。

←三俣山荘前から槍ヶ岳と北鎌尾根の夕暮れ

7/26 は自炊小屋で朝食済ませて早出。黒部川源流に降りて本当は一釣りしたかったが、(今回は登山で初めて竿を持参した) 先が長いので雲の平への登りに入る。この源流の渡渉も昨日小屋で聞いたら「残雪が多いのでお奨めできない、鷲羽岳経由で」と言ったが全然問題無。



こんなに小屋から近い利用者の多いコース状況も把握してない小屋番達にはガッカリする。これもオーナーの姿勢の表れだと感じた。

←黒部川源流

6時前の槍ヶ岳、中央に三俣山荘



雲の平から薬師岳、雲の平山荘も見えます

雲の平入り口から黒部五郎岳



雲の平山荘、右は黒部五郎岳、左は笠ヶ岳



利潤追求だけでは失格だ。ともあれ雲の平に到着。キャンプ場経由の道は閉鎖されていて遠回りさせられる。雲の平はシナノキンバイ・ハクサンイチゲ主体で花の種類も数も少ない。こんな所を「花の名所」のように宣伝するテレビや山岳雑誌を何回か見たが「詐欺罪」に当たる。ただ風情のある場所である事は間違い無い。黒部五郎・笠ヶ岳・水晶岳・薬師岳等の展望も素晴らしい。北海道の登山道を思い出すような狭い、木がかぶさる高天原峠への道を登り、下る。高天原峠着。本当は今日は高天原温泉にユックリ浸かって高天原山荘に泊まりたい。仕事を辞めたので日程は許すし。しかし明日の天候が雨模様なので増水

すると「大東新道」は危険になる。涙を吞んで今日は此処から未踏の地の大東新道へ。

此処からの大東新道が未踏区間



EからAまで沢を5つ越えます



予想以上に歩かれている感じの登山道である。急な下りが続き、途中E・D・C・B・A沢と5つの沢を横断する。D沢の手前でミヤマハナシノブらしき群生がある。（白馬清水岳と北岳大樺沢にしか無いと言われているので大発見になるが、高山植物図鑑がザックに入っていたのだから見れば良かったのに、大反省！）カメラの調子が悪くて何故か写真が上手く撮れない。タカネグンナイフウロかも？D沢過ぎたらハクサンコザクラの群生がある。

ハクサンコザクラ



B沢に到着



ミヤマカラムツも多い。単独行の同年代の人が登って来る。此处は登り5時間、下り3時間のコースで登りは大変だと思う。B沢を過ぎて黒部川の本流に出る。休憩を兼ねて早速釣りをする。餌は日持ちがしないと思って持参しなかった。川虫を探すが取れない。「毛バリ」を持って来たので試してみる。毛バリを川面に落としたりすぐ尺近いイワナが飛びついて来たがうまく合わせられないので、針掛かりしない。他の場所でも連続4匹飛びついてきたが。魚影はかなり濃い。さすが黒部川の奥地だけある。「毛バリ釣り」は「テンカラ釣り」と言って竿も仕掛けも餌釣りとは違うので無理なのか？薬師沢小屋までの間で何か所か川虫を探したが取れなかったのが残念。餌さえあれば釣る自信は満々なのだが。40CM位の大イワナも悠々と泳いでいる。増水すると歩けなくなるような箇所を通りながら早々と薬師沢小屋に到着する。此处の吊り橋は高所恐怖症の人には大変だと思う。早速小屋の近くで川虫を探すがいないので、又毛バリで試すが全く飛びついて来ない。きっと小屋に近いので擦れたイワナが多いのであろう。早々と諦めて小屋前で一人酒を始める。

B沢と黒部川の合流地点イワナの宝庫でした



薬師沢小屋前の吊り橋



2か所の未踏区間を踏破して薬師沢小屋前でお祝い



キヌガサソウの群生



此処も水で冷やしているが、まあ冷えている。今回はラッキーな事に3泊共布団一つに一人でユックリだった。隣はフライ釣りの2人連れで聞いたら、薬師沢へ行き2人で70匹も釣ったとの事。尺物は釣れなかったが28~29CMが主との事。もっともここは「キャッチアンドリリース」(釣った魚は、持ち帰らず再放流する)をと掲示があった。今日は好天に恵まれた。

7/27 も自炊室で朝食して早出する。木道中心の道が続く。イワナの多そうな沢を幾つか渡る。こんな所でユックリイワナ釣りをしてみたいが。途中から又雨が降り出してくる。上だけ雨具を着る。太郎小屋の写真も撮れずに下山する。休みっこ無し、水も補給せず下山する。時々降りが強くなって、登山道は川になってしまい最悪。水溜りをひたすら下る。膝に悪い。それでも登って来る登山者が多い。「そんなにまでして登るの?」と言いたかったが。私はとうとう雨具のズボンは今履かなかった。パンツまでびしょ濡れになったが。登山口が近づいたら何と雨は止んでしまった。太郎平小屋間は往復とも雨にやられてしまった。まあもう二度とこの区間は歩くことはないが。(雲の平・高天原



含めて) 帰路通常は亀谷温泉白樺ハイツで入浴であるが、

### 折立登山口



今回は立山吉峰温泉グリーンパーク吉峰で入浴した。設備の良い利用者の多い立派な温泉で正解だった。帰路親不知 IC で降りて好物の「ズワイ蟹」を買おうと探したが売ってなかった。姫川駅そばにあった蟹屋も廃業してしまった。8月は友人・知人と約束済の山行が3回あるが、何とか歩けそうだ。